

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300860
法人名	有限会社 日本サポートリンク
事業所名	色えんぴつのグループホーム・鈴鹿
所在地 (電話番号)	三重県鈴鹿市下大久保町2289-10 (電話) 059-373-3750
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 15 日(火)

【情報提供票より】 (H20年6月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有 (180,000円)		
入居負担金 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,500円		

(4)利用者の概要(6月1現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	87.6 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	前田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の北東部に位置し東は四日市にも隣接し、主要道路から入った住宅地の一角にある民家改修の落ち着いた建物が事業所である。玄関は開放され、利用者の一日は、介護者との対一の散歩から始まると言ってもよい。朝食も利用者一人ひとり希望の時間にとれるよう配慮されている。管理者はじめ職員は笑顔で、明るく、経験豊富で気配りがよく、利用者は安心して過している。地域自治会には加入していないが、自治会行事には参加して住民との交流も図られている。近く事業所の新築計画があり転居予定である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスの「運営理念」、「市町村との連携」、「災害対策」等は本部管理者、管理者、職員とで話し合いがされた。特に運営理念については文字表現にとらわれず、内容や意味について確認し、ケアサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、日々のケアを振り返る機会と考え、職員一人ひとりが分担し記入した後管理者がまとめた。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は平成19年6月に第1回目を開催し、概ね4ヶ月に1回開催されている。出席者は家族代表、利用者、包括支援センター職員、自治会長、民生委員、管理者が出ている。最近の討議内容では、「認知症サポート養成の必要性」の意見があった。運営推進会議は事業所の理解と支援を得る機会となるものなので、今後は2か月に1回開催されることを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族に意見、苦情、不安への対処方法・運営への反映(関連項目:外部7・8)</p> <p>玄関に「ご意見箱」は設置されていたが、家族からの苦情等の投書はない。家族が来訪時に口頭で伝えられたことは、すぐに対応できるように検討している(医療機関への受診時、食事をとする場所等)。苦情相談窓口等は重要事項説明書に明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所としては、自治会に加入していないが、地域の夏まつり、ゲートボールの見学、保育園の行事等の参加案内があり出かけている。また、日常の散歩、買い物等で地域の人達との交流にも努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも、どこでも、私らしく」の理念の「どこでも」の概念は地域の中に根づいているという意識をもって支援している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は会議、日常のケアにおいて、日々理念の実践に取り組んでいる。		
管理者、職員					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入をしていない(理由は自治会の役割分担が出来ない)が、地域の行事(まつり、ゲートボール見学、保育園の行事)等の案内があり参加している。日常の散歩、買い物等で地域の人達との交流を図っている。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については日々のケアを振り返る機会と考え、職員一人ひとりが分担して記入、その後に管理者がまとめた。外部評価の結果は会議等で報告し、改善について取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年6月に第1回目を開催し、概ね4ヶ月に1回は開催し記録している。出席者も家族代表者、利用者、包括支援センター職員、自治会長、民生委員、管理者等が参加している。最近の討議内容では、地域代表、家族代表から「認知症サポーター養成の必要性」等の意見が出されている。	○	運営推進会議は定期的に行われ、事業所の理解と支援を得る機会になるものであるから、「ホームたより」を発行し認知症の理解と協力を得るよう努め、今後は2ヶ月に一回運営推進会議を開催されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合会との連絡、介護相談員の来訪、介護保険代行申請、運営推進会議の開催等で市等の連携はとれている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回「ご家族様へ」の文書で健康状態、日常の様子、行事案内等を知らせている。金銭管理は利用者の出納帳があり記録もされ、家族への報告もされている。職員の異動については、家族の来訪時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているが、家族からの意見、苦情、不満等の投書はない。家族の来訪時の意見等は口頭で伝えられたことは検討している(医療機関受診の時期、食事をする場所等)。外部の苦情相談窓口等は重要事項説明書に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去には職員の異動は多くあったが、現在は落ち着いている。職員の異動は、利用者への影響を考え、勤務配置に配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域グループホーム協議会主催の研修に出席している。月1回の会議等でも研修の時間をとっており伝達もしている。資格取得等にも配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所(レモンの家、太陽の家)からの研修生を受け入れている。本部の事業所(デイサービス・グループホーム)へ訪問したり、行事に利用者と一緒に参加するなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者、家族と顔なじみになるために訪問し、家族の協力を得て、生活歴、趣味等の情報を得ている。また、家族にも何回か来訪してもらい、事業所の雰囲気馴染めてもらうように支援している。入所体験を受け入れる体制はある。		
(
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と、日常の暮らしの中で、食事の準備、後片付け、洗濯物干し等を一緒にしながら支え合う関係になっている。梅干し漬けを利用者から教えてもらっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの思いを引き出すように努めている。自分の思いを表せない利用者には、紙に書いてもらったり、利用者の表情等で把握するように努めている。		
○チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の会議で日常の気づき、利用者、家族の意見等をアセスメントして、介護計画を作成している。		
○現状に即した介護計画の見直し					
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングをし介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に応じて随時話し合い、新たな介護計画の作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
で					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診、利用者の希望に応じた買い物、自宅への外出等職員と一緒にしかける支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医(協力医療機関)へ受診しており、眼科、歯科への受診も支援しているので、医療機関と事業所との連携はよい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に危篤状態の利用者をケアした体験がある。管理者は終末期ケアの経験があり、今後は利用者、家族の意向によって、かかりつけ医、職員等の協力で、終末ケアを支援できる体制はある。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあった排泄、入浴介助、食事の場所(座席)等の言葉がけに配慮している。書類等の個人情報の取り扱いも周知され利用者、家族の同意を得ていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、気持ちを尊重し散歩、買い物、食事の後片付け、花の水遣り等、利用者の意向に添うような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、食材の買い物、調理、配膳、後片付け等を利用者と職員が一緒に行い、楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後入浴できるようになっている。基本的には、週2回は入浴できるように配慮している。利用者の状態によっては清拭をすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること好きなことを見出し、食事の準備、調理、花壇の水遣り、草取り、洗濯物干し、梅干し漬け等が楽しみでもあり、役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は全員の日課になっており、利用者との職員との1対1の対応である。利用者の中には、事業所の周辺を一人で散歩する事もある。月1回は買い物や誕生会・外食等で遠出するような支援をしている。		
買い物					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室は施錠されてない。夜間は施錠している。利用者が出て行った場合は、職員が後から見守りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練は平成19年6月に消防署の指導で実施。平成20年は9月に、地域自治会の防災訓練に参加予定である。管理者は防災管理者の資格を取得している。(講習済)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所で食材を購入し、栄養のバランスを考慮した献立になっている。6ヶ月に1回管理栄養士の指導を受けている。水分摂取量についても配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けられ、窓から入る明かりや風が心地よく感じられ、居間にはゆったりしたソファがあり、気のあった利用者同士が、話し合う等居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者一人ひとりの使い慣れた、ベット、整理タンスが置かれ、中には仏壇も持ちこみ、利用者がそれぞれ落ち着いて過ごせるようになっている。		